

夢大使活動日誌

夢大使の皆さんの活動などを紹介します。

目標の写真展で入選



▲藤島さんの入選作品「入谷打囃子」

※今月の表紙の写真は、藤島さんが撮影した別の写真をお借りし掲載しました。

南三陸町夢大使を務める藤島純七さんの写真作品「入谷打囃子」が、第22回河北写真展「東北の祭り部門」で入選し、11月24日から6日間、仙台市青葉区の藤崎本館で開催された作品展で披露されました。

藤島さんの作品は、今年9月に開催された入谷八幡神社例大祭の入谷打囃子のひとコマを撮影したもので、花笠をかぶった獅子あやしが太鼓や笛に合わせて舞い、獅子を操る様子が捉えられています。応募作品1,712点の中から、入賞・入選作品79点のひとつに選ばれたものです。

藤島さんは「自分が夢大使を務める南三陸町を題材にした作品で目標の賞をとることができてうれしい。これをステップに撮影技術の向上に努めながら、夢大使としてのPR活動を続けていきたい。」と話してくれました。



夢大使

ふじしま じゅんしち
藤島 純七さん
(仙台市)

私がこの町のCMを作るとしたら…? 「牡蠣ツアー」で町の魅力を発掘

南三陸町夢大使の遠藤恭子さんとその友人らで企画した「第3回牡蠣ツアー」が、11月25日(土)から1泊2日で開催され、首都圏から参加者40名ほどが来町しました。



夢大使

えん どう きょう こ
遠藤 恭子さん
(東京都)

ツアー参加者のほとんどは、過去2回の評判を友人から聞いて参加した友人(20~30歳代前半の若者)です。

このツアーは、「魚介の生産地である私の町を知ってもらいたい」という遠藤さんの思いから、毎回テーマを設定して行われており、単なる「グルメ旅」とは一味も二味も違います。

今回のテーマは「私が

この町のCMを作るとしたら」。

ツアー初日は、参加者がいくつかの小グループに分かれ、初めて訪れる町を散策しながら町の魅力をレポートにまとめました。夜の交流会の席では、スタッフの事前の訪町で声をかけた町民などを交えてレポートの発表審査会が行われ、町をPRするキャッチフレーズなどが参加者から披露されました。

2日目は、牡蠣などの養殖施設や加工の様子を見学体験し、水揚げしたばかりの新鮮な旬の食材を海鮮バーベキューで味わっていました。

このツアーに参加した皆さんが、南三陸町の魅力を広めてくれることを期待します。

【参加者に感想を聞きました】

- ・「船の上で食べた牡蠣が、人生最高の味」
- ・「さまざまな苦労があって、安全でおいしい牡蠣が育てられることを知った。生産者に感謝します。」
- ・「この町で活躍する同世代の皆さんと話す機会があった。もっと多くの皆さんと話したい。」



牡蠣ツアー参加者とスタッフの皆さん

カキツアー「私がこの町のCMを作るとしたら」最優秀賞
緑葉香る 磯香る アロマティック志津川

志津川駅前から市街地にかけて歩いていると、すぐに海の香りがしてくる。海に近づくとそれは強くなる。しかし、海岸近くの荒沢神社の境内は、磯の香りを消し緑の香りであっぴい空間であることに気づいたことを表現したもの。